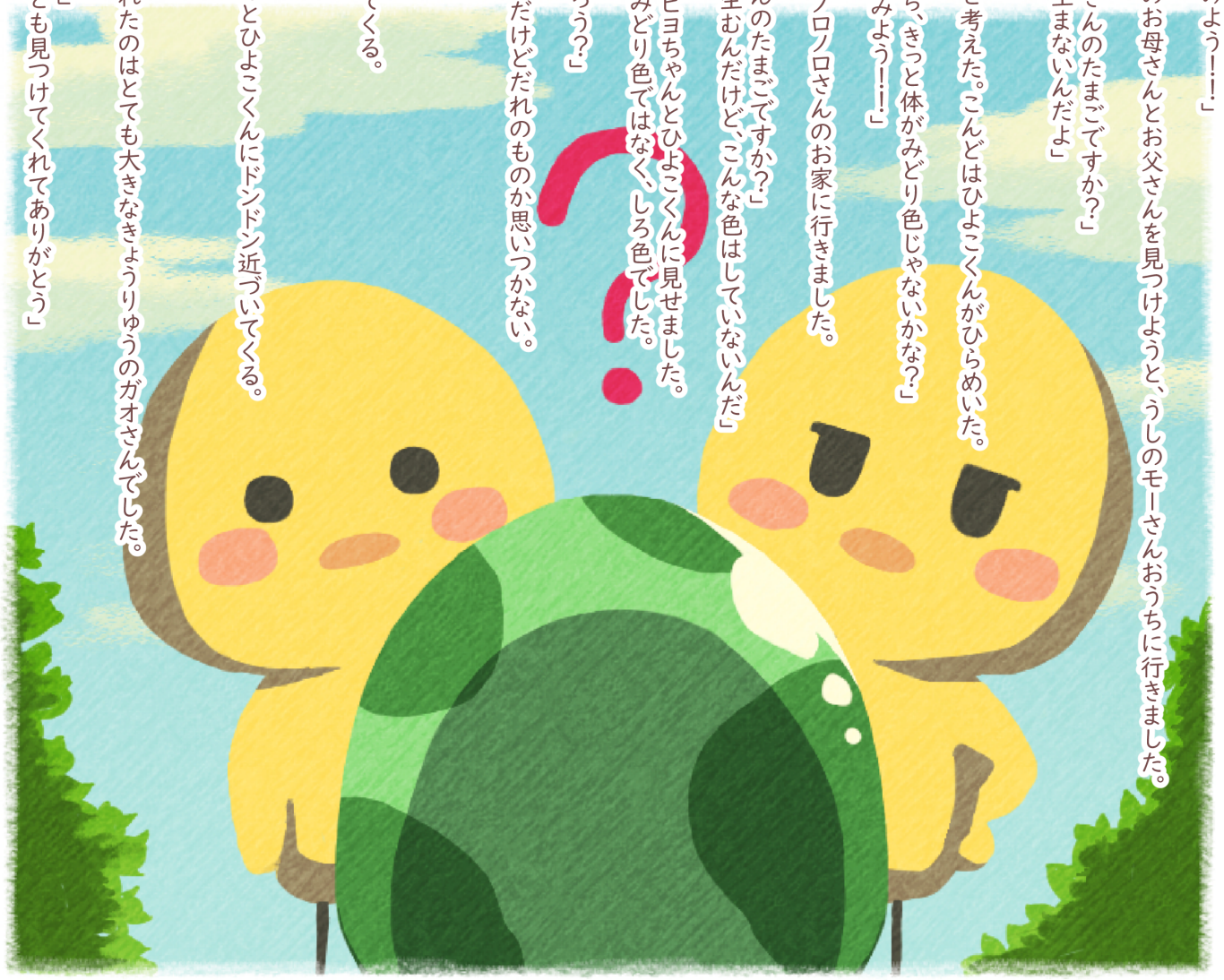
このたまご、だ〜れの？

文・廣瀬　晴輝
絵・都々木　あゆ

ピヨちゃんが、ひよこくんとあそんでいると、ピヨちゃんが大きくてみどり色をしたたまごを見つけました。
「うわー!! なにこれ? とても大きい!!」
「これってたまごだよ」
「たまごって、だれのたまごなの?」
ひよこくんはうーんと考えたけど、だれのたまごか分からなかった。
するとピヨちゃんはひらめいた。
「そうだ。たまごがこんなに大きいんだから、きっと体が大きいどうぶつのものなんだよ」
「じゃ、モーさんのところに行ってみよう!!」
ピヨちゃんとひよこくんはたまごのお母さんとお父さんを見つけようと、うしのモーさんおうちに行きました。
「モーさんモーさん、これってモーさんのたまごですか?」
「いや、ちがうよ。うしはたまごを生まないんだよ」
どうやら、ちがったみたい。
ピヨちゃんとひよこくんはうーんと考えた。こんどはひよこくんがひらめいた。
「わかった。たまごがみどり色だから、きっと体がみどり色じゃないかな?」
「じゃ、ノロノロさんのお家に行ってみよう!!」
ピヨちゃんとひよこくんは、かめのノロノロさんのお家に行きました。
「ノロノロさん、これってノロノロさんのたまごですか?」
「ううん、違うよ。かめはたまごは生むんだけど、こんな色はしていないんだ」
ノロノロさんは持っていたたまごをピヨちゃんとひよこくんに見せました。
ノロノロさんが持っていたたまごはみどり色ではなく、しろ色でした。
どうやら、ちがったみたい。
「うーん……だれのたまごなのだろう?」
ピヨちゃんとひよこくんは考えた。だけどだれのものか思いつかない。
すると、
ドン!!!!!……ドン!!
どこからか大きいあしおと聞こえてくる。
ドン!!!!!……ドン!!!!
きょうだいなあしおとがピヨちゃんとひよこくんにドンドン近づいてくる。
「ガオオオオ!! やっと見つけた」
ピヨちゃんとひよこくんの前に現れたのはとても大きなきょうりゅうのガオさんでした。
「このたまごってガオさんのですか」
「ガオオオオ!! そうだよ。二人とも見つけてくれてありがとう」
「よかった!!!!」
ピヨちゃんとひよこくんはよろこびました。
「ガオオオオ!! もうこんな時間だ。二人とも私の背中に乗って。お礼に家まで送っていくよ」
ピヨちゃんとひよこくんはガオさんのしっぽを登り、背中に乗りました。
「うわー!!高い!!」
「たまごがこんなにも大きいもの、なっとくだね」
「ガオオオオ!! それじゃ出発!!」



ガオさんのおかげでピヨちゃんとひよこくんはあっという間に家に帰ることができました。
そらを見ると、まっくらできれいなお月さまが出ていました。

「ただいま」

ピヨちゃんとひよこくんはお家のドアを開けると、お父さんとお母さんが待っていました。

「おかえり」

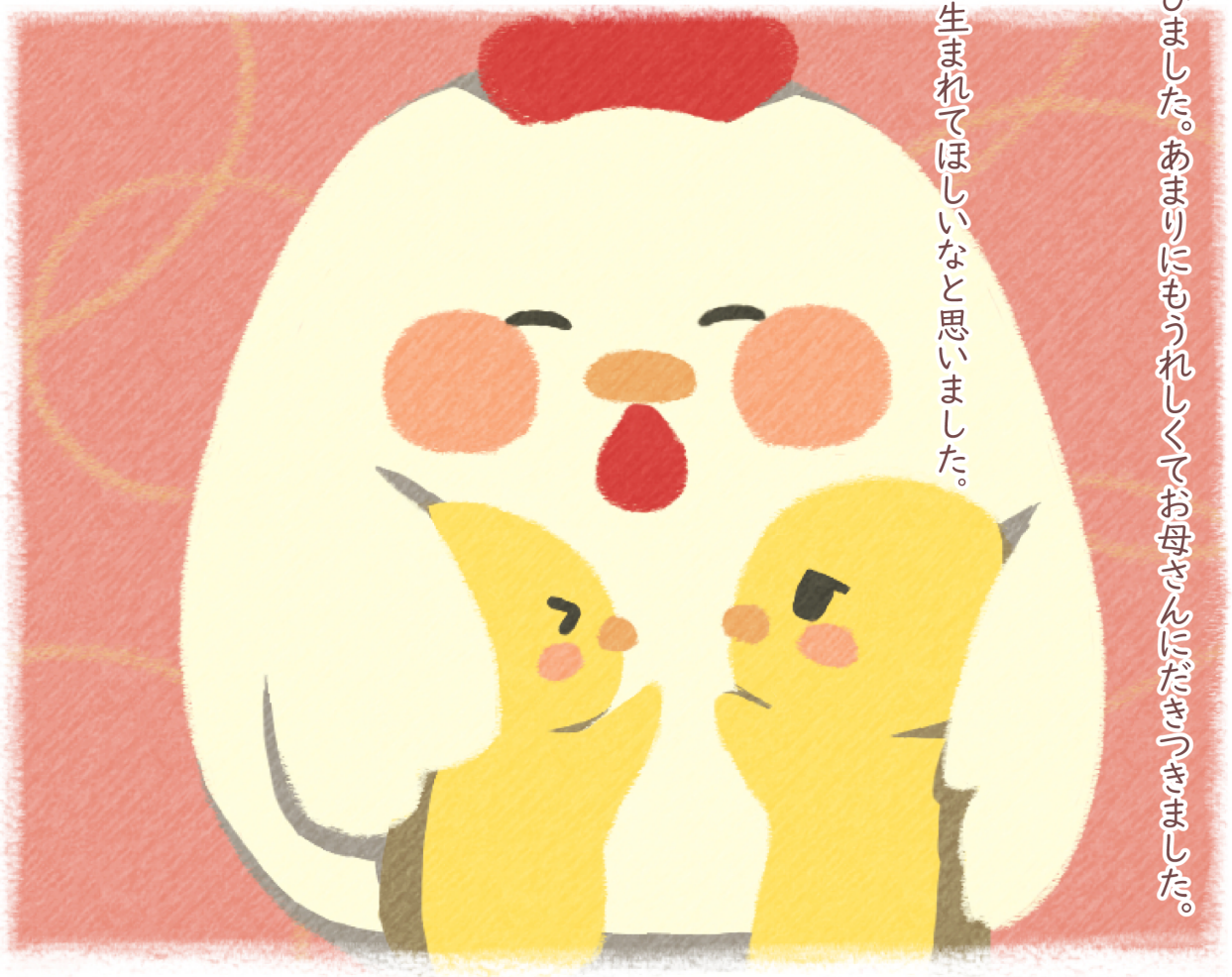
あれ？
ピヨちゃんとひよこくんはお母さんの足のほうを見ました。
そこには見たことがあるものがあったのです。

「「たまごだ！！！」」

ピヨちゃんとひよこくんがびっくりしていると、お母さんはニコッと笑って言いました。

「あなたたちはこれからお姉さん、お兄さんになるのよ」

ピヨちゃんとひよこくんはよろこびました。あまりにもうれしくてお母さんにだきつきました。

「楽しみだね！！」
「うん！！！」

ピヨちゃんとひよこくんは、はやく生まれてほしいなと思いました。